

2024 年度日本数学会出版賞の推薦募集について

理事長 清水 扇丈

20 世紀以来著しい進展を遂げた数学の研究には我が国の数学者も大きく貢献しており、本会も我が国における数学研究の環境整備に努めてまいりました。ところが、数学が高度に専門化したため、数学の果たす重要な役割が一般の方々はもとより、理科系の専門家にも理解されているとは言い難い状況があります。

一方、数学の魅力や巧みに伝える一般向け啓発書が出版されるという誠に喜ばしい事例も昨近相次ぎみられ、本会としましては側面から応援したいと考えております。また、数学諸分野の有機的連携を図り、自然科学、社会科学との協力関係を促進するためにも、数学の魅力や目覚ましい発展の真髄を他分野の専門家のみならず一般にも判りやすく伝える数学者の努力も奨励したいと考えております。

そこで、本会では「出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰」するために、日本数学会出版賞を設けて 2005 年春に授賞を開始しております。つきましては、下記の推薦要領を参考にご推薦頂ければ幸いです。

なお、これまでに、次のように日本数学会出版賞を贈呈していることを申し添えます。

(敬称略, 順不同)

2022 年度

- 加藤十吉

(授賞理由) 加藤十吉氏は位相空間、位相幾何学に関する良書を多数著し、数学を専門とする学部生、大学院生の教育・研究に多大な貢献をした。「集合と位相」は直感と結びつけながら無限と連続について理解を深めることを意図して著された教科書であり、見通しの良い明確な文章で書かれている。「位相幾何学」は線型代数以外の予備知識を仮定せずに読めるように構成されているが、単体的複体のホモロジー論にとどまらず特異ホモロジー論についても詳しく扱っており、さらに当時最先端であった研究対象の記述においても他の和書にはない特徴を持った書籍となっている。ここで挙げた 2 点以外にも「トポロジー」、「組合せ位相幾何学」を著したほか「トポロジー入門」(クゼ・コスニオフスキ著)を翻訳するなど数学の教育・研究に寄与しており、その功績は出版賞に相応しいものである。

- 『紀伊國屋数学叢書』

(授賞理由) 編集委員伊藤清三、戸田宏、永田雅宜、飛田武幸、吉沢尚明の各氏のもと、1974 年から 94 年にかけて全 33 巻計 35 冊刊行された本叢書は、「現代数学の発展にとって重要であり、また既刊書で必ずしも重点が置かれていない」テーマを選ぶという方針のもと、一流の数学者によって執筆された。この様な編集方針は実に先駆的なものであり、出版された当時の最先端の成果の解説を含んだ各巻はオリジナリティ

が高く、現在まで活用され続けている。高水準で類を見ない本叢書は出版賞に相応しいものである。株式会社紀伊國屋書店におかれましては、本叢書刊行に比肩しうる貢献を継続していただくことを願いつつ、本叢書を現在もオンデマンド版として提供し続けていることに敬意を表したい。

2021 年度

- 笠原皓司

(授賞理由) 大学1, 2年生を主な対象とした教科書・読み物の執筆を通じて広く理学系の教養教育に多大な貢献をした。とくに、「対話・微分積分学」、「新微分方程式対話」などの会話形式による著作は、適切な題材を提供しつつ、初学者が抱く疑問に親切に答え、数学を楽しく学ばせてくれるものとなっている。1970年代以降今日に至るまで、数学の教育活動において果たした役割は、本賞に相応しいものである。

- 中央大学理工学部数学教室代表 三松佳彦, 高倉樹

(授賞理由) 集会“ENCOUNTERwithMATHEMATICS”(以下 EwM) は1996年に三松佳彦氏により中央大学数学科で始められ1997年から高倉樹氏も加わり現在までに74回開催されている。数学研究の最新の話題が専門家によって、深く、かつ、わかりやすく解説される場は、数学に携わる多くの研究者に分野にとらわれない交流を促し、また学部生、大学院生を含む次世代の研究者への大きな刺激となってきた。中央大学数学教室の後援のもとで今年度23年目をむかえる EwM を、三松、高倉両氏が高い見識をもって安定的に運営していることは顕彰に値するものである。なお、出版賞の対象である著作活動としては、広く数学の普及活動という意味で授賞対象となった事例が種々あること、そして EwM のホームページを通じて公開されている講義録の学術的価値をも考慮し、EwM を出版賞の対象とした。

2020 年度

- 神保道夫『量子群とヤン・バクスター方程式』(丸善出版)

(授賞理由) 量子群の概念の登場後、早い時期に日本語による優れた教科書が存在したことはこの分野の研究者層の厚みを確保するのに貢献したものである。最短コースで量子群の基礎を学ぶには現在でも最も適している。一つの分野へ大きな影響を及ぼした著作である。

- 富永星

(授賞理由) 一般読者向けに書かれた海外の啓蒙書や数学入門書を数多く翻訳し、数学の普及に大きく貢献していると評価できる。翻訳は適確かつ分かりやすく、たいへん読みやすいものである。氏の訳本は数学の様々な分野におよび、良質で特徴のある原著が選ばれている。

- 山本義隆『小数と対数の発見』（日本評論社）
（授賞理由）著者は科学史方面に多数の著作があり，例えば「古典力学の形成」では微分積分学の成立の過程を深く考察している．本作では，天文学をはじめとする科学の発展に伴って，小数と対数の概念が確立していく様子が丁寧に描かれている．一次資料に丹念にあたりながら，分かりやすい説明によって読者を導く良書である．

2020年度より前の情報は，<https://www.mathsoc.jp/interested/pubprize/> をご覧下さい．

2024年度日本数学会出版賞の会員による推薦を次の要領で募集します．

2024 年度日本数学会出版賞の推薦要領

1. 趣旨 出版活動などの著作活動により、数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた活動を顕彰
2. 対象 著作物、もしくは著作物等の著者、編集者、制作者、出版者などの個人または団体。
 - (1) 特定の著作物等のみならず、個人・出版者等による普及活動全般も対象とします。
 - (2) 個人に授賞する場合は、授賞発表時点での存命者に限りませぬ。
 - (3) 「著作物等」には、書籍、雑誌、ビデオ、DVD、電子媒体等を含みます。論文は研究業績を顕彰する他の賞の対象でもありますので、原則として対象とは致しません。
 - 著作物等の場合に想定する対象としては、数学専門家向け書籍・雑誌、数学専攻大学院生向け専門書、学部学生用教科書、大学生・高校生・中学生・小学生等を対象とする啓発著作物等、非数学者向けの専門書籍・雑誌、一般を対象とする啓発著作物等が考えられますが、これら以外でも、賞の趣旨に適うものが推薦されてくれば審査対象とします。
 - 和算関係の著作物等も対象とします。
 - 著作物等の場合、原則として日本語によるものを対象としますが、日本人著者による外国語でのオリジナルな著作物等や、日本語による著作物等を翻訳して世界に普及させたものも対象とします。
 - 日本語への翻訳著作物等も、訳者、編集者、出版者を対象とします。
 - 著作物等の場合、審査時点で入手可能なもののみを対象とします（推薦時に現物を提出する必要はありませんが、選考委員会が推薦者に対して審査対象著作物等の一時貸与を御願ひする場合があります）。
3. 推薦件数等 他薦（各会員毎の件数は問わない）
4. 推薦書類 A4 版用紙 2 枚以内に、次の事項を御記載下さい。
 - ① 推薦者氏名、数学会会員番号、連絡先住所、電話番号、電子メール宛先。
 - ② 特定の著作物等に関して推薦して頂く場合には、顕彰すべき対象と著作物等の書誌事項（著作者名・翻訳者名等、著作物等題名、出版者等名称、出版年、その他）。
 - ③ 編集者・制作者・出版者等に関してその活動を推薦して頂く場合には、その対象名と顕彰対象とすべき具体的事項。
 - ④ 推薦理由。
5. 推薦書提出締切 2023 年 6 月 30 日（金）（必着）
6. 推薦書提出宛先 〒 110-0016 東京都台東区台東 1 丁目 34-8
日本数学会出版賞選考委員会 宛

2024 年度日本数学会出版賞推薦書

必ずしも本書式を使用しなくて結構です。他薦する候補ごとに、下記の必要事項を A4 用紙 2 枚以内 に御記載下さい。

推薦書提出締切 2023 年 6 月 30 日（金）（必着）

推薦書提出先 〒 110-0016 東京都台東区台東 1 丁目 34-8 日本数学会出版賞選考委員会

推薦書記載事項

(1) 推薦者の情報

① 氏名 ② 数学会会員番号 ③ 連絡先住所 ④ 電話番号 ⑤ 電子メール宛先

(2) 他薦する候補（件数は問いません。推薦要領を御覧下さい。）

- 特定の著作物等の場合

① 顕彰すべき対象

② 著作物等の書誌事項（著作者名・翻訳者名等、著作物等題名、出版者等名称、出版年等）

- 編集者・制作者・出版者の活動の場合

① 顕彰すべき対象名

② 顕彰対象とすべき具体的事項

(3) 推薦理由

これまでの受賞者 当会ホームページをご参照ください。

<https://www.mathsoc.jp/interested/pubprize/>